

学校保健

平成20年3月

No. 271

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/



JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(財)日本学校保健会



心も体も元気に育て！

健康
教育

実践校を表彰

21世紀・新しい時代の 健康教育推進学校

——平成19年度表彰式——

主な紙面

〈健康教育をささえる〉
保健主事の現場から……5～6
1人の時点ですぐ対応
学校での麻疹対策……8～9

〈海外ニュース〉
心の理論と社会性の発達……9
座談会「特別支援教育元年と
これからの展望」……10～13

表彰式は2月14日(木)、日本医師会館(東京・文京区)で開催、当日は児童生徒からの実践発表もあり、会場から大きな拍手を受けていました。(関連記事2～4ページ)

この春も麻疹の流行に注意！

国立感染症研究所感染症情報センター 多屋 馨子

2007年春の麻疹流行により、1学期のみで263の学校等が休校し、その中でも高等学校と大学で、156校を占めていました。こういった事態は国内では初めてのことであり、同時に、ワクチンや検査診断キットが不足するなど、社会的な混乱にも発展しました。また、麻疹を既に排除eliminationしている国(南北アメリカ大陸や大韓民国など)へ2007年1年間に、若者の一般旅行、修学旅行、スポーツ大会等により、日本から麻疹を輸出してしまい、国際問題にも発展しつつあります。

2008年2月現在、麻疹の流行は全国各

地に広がっており、毎週、数百人規模で患者報告がなされています。2008年1月の累積報告数を見ると、今年もワクチン未接種の10代を中心とした流行であることがわかります(図)。もし事前対策が行われていなかった場合、2007年のように、麻疹による休校や学年閉鎖等の措置が必要になる学校が多く発生するのではないかと懸念されます。(8ページへつづく)

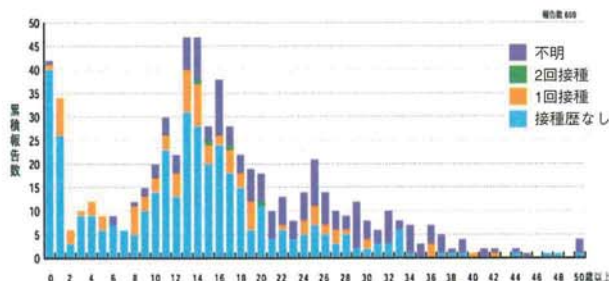
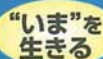


図 麻疹ワクチン接種歴別年齢別累積報告数
(2008年第1～4週) (国立感染症研究所感染症情報センター)

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	学校栄養職員	PTA	会 長	副会長	

今号には家庭・地域向けの別刷「未来への架け橋」を差し込んでいます。今回は「インフルエンザ小冊子プレゼント」「データでみる早寝早起き朝ごはん」です。保護者配布などにはコピーして活用ください。



健やかな心と体の成長のために

平成19年度 健康教育推進学校表彰校

最優秀校 6校

埼玉県 川口市立並木小学校
愛知県 豊橋市立芦原小学校
岡山県 高梁市立有漢東小学校
山形県 酒田市立第一中学校
秋田県 秋田県立雄物川高等学校
群馬県 群馬県立豊学校

優秀校 14校

群馬県 伊勢崎市立宮郷小学校
埼玉県 川口市立東領家小学校
東京都 江東区立南砂小学校
神奈川県 清川村立緑小学校
新潟県 上越市立安塚小学校
岐阜県 多治見市立市之倉小学校
京都府 南丹市立吉富小学校
山口県 平生町立平生小学校
福岡県 須恵町立須恵第三小学校
長崎県 長崎市立三原小学校
福島県 いわき市立小名浜第一中学校
埼玉県 川口市立十二月田中学校
岡山県 岡山県立岡山操山中学校
沖縄県 沖縄県立西崎養護学校

優良校 68校

青森県 青森県立五所川原工業高等学校
山形県 酒田市立中平田小学校
山形県 米沢市立興譲小学校
宮城県 栗原市立若柳中学校
福島県 泉崎村立泉崎第一小学校
福島県 川俣町立川俣南小学校

茨城県 日立市立大沼小学校
栃木県 宇都宮市立上河内西小学校
栃木県 茂木町立中川中学校
群馬県 富岡市立吉田小学校
千葉県 野田市立七光台小学校
千葉県 芝山町立芝山小学校
千葉県 習志野市立屋敷小学校
東京都 多摩市立北貝取小学校
東京都 杉並区立桃井第五小学校
東京都 八王子市立七国小学校
東京都 東京都立足立東高等学校
神奈川県 愛川町立愛川東中学校
富山県 高岡市立二塚小学校
富山県 黒部市立若栗小学校
富山県 南砺市立利賀中学校
石川県 小松市立矢田野小学校
石川県 珠洲市立三崎中学校
山梨県 北杜市立明野中学校
長野県 茅野市立宮川小学校
静岡県 浜松市立三ヶ日東小学校
静岡県 浜松市立水窪中学校
愛知県 津島市立高台寺小学校
愛知県 美浜町立野間中学校
三重県 名張市立長瀬小学校
京都府 八幡市立中央小学校
京都府 綾部市立八田中学校
大阪府 豊中市立豊島北小学校
大阪府 大阪府立大正高等学校
兵庫県 小野市立市場小学校

奈良県 奈良県立平城高等学校
和歌山県 海南市立亀川小学校
和歌山県 かつらぎ町立笠田中学校
島根県 奥出雲町立阿井小学校
岡山県 赤磐市立山陽北小学校
広島県 大竹市立大竹小学校
広島県 東広島市立高屋西小学校
広島県 東広島市立高屋中学校
山口県 下関市立神田小学校
山口県 山口市立徳地中学校
香川県 土庄町立北浦小学校
香川県 観音寺市立柞田小学校
香川県 高松市立国分寺中学校
福岡県 宗像市立赤間小学校
佐賀県 唐津市立相知小学校
佐賀県 佐賀市立神野小学校
佐賀県 唐津市立名護屋中学校
長崎県 時津町立時津北小学校
長崎県 壱岐市立石田小学校
熊本県 益城町立飯野小学校
熊本県 熊本市立井芹中学校
大分県 宇佐市立津房小学校
鹿児島県 大口市立羽月北小学校
鹿児島県 南さつま市立益山小学校
横浜市 横浜市立神奈川中学校
名古屋市 名古屋市立新明小学校
京都市 京都市立納所小学校
京都市 京都市立向島藤の木小学校
神戸市 神戸市立御蔵小学校
神戸市 神戸市立北山小学校
広島市 広島市立古市小学校
さいたま市 さいたま市立田島中学校
新潟市 新潟市立沼垂小学校

平成20年度全国及び各地区ブロック大会日程予定 (平成20年12月まで)

4月	全国学校保健会事務担当者連絡会	東京都
5月18日(日)	第59回指定都市学校保健協議会	広島県広島市
7月17日(木)	第30回近畿学校保健連絡協議会	京都府京都市
8月 7日(木)、8日(金)	平成20年度全国養護教諭研究大会	鳥取県鳥取市
8月11日(月)、12日(火)	第8回九州地区健康教育研究大会	熊本県熊本市
8月19日(火)、20日(水)	第17回四国学校保健研究大会	高知県高知市
8月21日(木)、22日(金)	第51回全国学校保健主事研究協議会	和歌山県和歌山市
8月21日(木)、22日(金)	第41回東北学校保健大会兼第60回宮城県学校保健・安全研究大会	宮城県仙台市
8月21日(木)	第59回関東甲信越静学校保健大会	長野県長野市
8月21日(木)、22日(金)	第54回中国地区学校保健研究協議会	島根県松江市
10月16日(木)、17日(金)	第72回全国学校歯科保健研究大会	神奈川県横浜市
10月19日(日)	第57回北海道学校保健研究大会空知(岩見沢)大会	北海道岩見沢市
10月19日(日)	第29回東海ブロック学校保健研究大会	岐阜県多治見市
11月 6日(木)、7日(金)	第58回全国学校保健研究大会	新潟県新潟市
11月 7日(金)	平成20年度全国学校保健会協議大会	新潟県新潟市
11月20日(木)、21日(金)	平成20年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会	愛知県名古屋市

平成19年度 21世紀・新しい時代の 健康教育推進学校表彰

最優秀校紹介



「人となにこ、元気な並木っ子」の 健康づくり

～学校・家庭・地域が一体となって進める健康教育～

埼玉県川口市立並木小学校

「心と体の元気な子の育成」を目指し、本校の永年の伝統である健康教育を、学校経営の重点として推進して参りました。児童の実態、社会の変化に即して、家庭・地域と一体となり、さらに発展させていく覚悟でございます。

心身ともに健やかで、楽しく活発に 活動する芦原っ子

愛知県豊橋市立芦原小学校

「体づくり」体育学習の充実や日常生活での運動チャレンジ、「生活づくり」健康への意識を高める学習や生活改善をめざす日常活動を中心に家庭地域と連携しながら取り組んできました。健康的な生活を実践しようとする子どもが育っていることを確信し、さらなる向上を願っています。



給食後の歯みがき

早寝・早起き・朝ごはん 元気な体と心の東っ子

岡山県高梁市立有漢東小学校

学校教育目標である「生きる力にあふれ、明日に輝く東っ子」にせまるために『日本一元気な子どもと学校』を合い言葉に、引き続き、教職員・保護者・地域と連携・協力しながら、積極的な健康教育を進めていきたい。



健康生活の自主的な実践力を養い、自己を 向上させようと努力する生徒の育成にむけて

～「学び・かかわり」を重視した健康づくり～

山形県酒田市立第一中学校

学校教育目標「学びあう一中」「鍛えあう一中」「尽くしあう一中」の具現をめざし、保護者と学校、地域一体となり、健康教育を推進してきました。今後も地域の方々との豊かなかかわりを通して、社会の一員としてより健全な生き方を求める生徒の育成に努力していきます。



保護者と共に設置した駐車スペース

生徒とともに語り合う「心」・「体」・「性」

～心の育成を目指して～

秋田県立雄物川高等学校

「総合的な学習の時間」を軸に様々な角度から生徒の心にアプローチ。健康教育もその柱のひとつとなって、生徒の心の育成を目指して取り組んでいます。これからも全教職員が一丸となり、さらに地域と手を取り合って、生徒に語りかけていきたいと思っています。



『しゃべり場』の一コマ



生きる力を育む健康教育の推進

～幼小中高の連携を基盤にした
『継続的・組織的な取組』～

群馬県立聾学校

本校は、ことばを育て聴覚活用を支援する専門の学校です。それを支える健康な心と体に着目して、健康な生活の習慣化を目指し全校をあげて取り組んできた実践です。これからも、日々の実践に努力していきたいと思っています。

この学校表彰の最優秀校・優秀校の実践は「21世紀・新しい時代の健康教育推進学校の実践 ―第6集―」として本会より発行(3月予定)します。ご活用ください。



審査を終えて

審査委員会小委員長
吉田 瑩一郎 (日本体育大学名誉教授)

本年度で6回目の審査を終えたことになるが、応募校もこれまでで最も多い88校(小学校60校、中学校21校、高等学校5校、特別支援学校2校)に及び、内容的にも高い水準の学校が目についた。また、最優秀校や優秀校が特定の都県に集中する傾向がなきにしもあらずであったが、本年度は、初めて秋田県から高等学校の最優秀校が、また神奈川県、新潟県、岐阜県、京都府、長崎県から小学校の優秀校が、さらに沖縄県から養護学校の優秀校が誕生したことは特筆すべきことであった。

審査は、例年同様健康教育推進学校活動状況調査票に基づき、Ⅰ. 学校経営における健康教育(学校経営方針と健康教育、学校保健(安全)計画、健康教育の推進体制、学校保健委員会及び地域学校保健委員会)とⅡ. 特徴的な活動(重点課題と活動のねらい、計画と実践の状況、成果と評価)について書類と学校訪問によって行った。

推薦のあった学校は、都道府県・政令指定都市

を代表する健康づくり推進学校であるだけに、学びわくわく(進んで学ぶ子)、人とにこにこ(豊かにかかわる子)、心と体すくすく(元気な子)などといった児童像(並木小学校)のもとに、家庭・地域社会と連携して、組織的に健康な学校づくりに取組む学校が目立つようになった。

しかし、健康な学校づくりの中核ともいえる学校保健計画と学校保健委員会については、依然として改善を要する学校が目についた。

学校保健計画は、どのような活動を推進するにしても、それぞれの学校における「年間を見通した学校保健活動(保健教育、保健管理、組織活動)の総合的な基本計画」として立案されるべきものである。その上に、実施計画としての月間計画と活動ごとの計画が作成される必要があることに留意して欲しいものである。

また、学校保健委員会は、児童生徒の健康問題を研究協議し、問題解決を推進するための組織であることに留意し、各学校間・校種間や地域の健康づくり活動との連携に配慮した組織・運営の改善・工夫を望むものである。

今後の継続と更なる発展を期待

シリーズ 12

「健康教育をささえる」～「保健主事」の現場から～

役割の明確化と地域の組織化推進・充実を
～子どもたちの健やかな成長のために～

全国学校保健主事会会長 石井 一夫

1. 学校の現状

現在の児童生徒の健康課題は、多くの場合が近年の社会環境や生活様式等の急激な変化により、顕れるべくして顕れた現代病であるといわれています。喫煙、飲酒、薬物乱用、性の逸脱行為、アレルギー疾患、生活習慣病の兆候など、生活環境の変化により、児童生徒の心身にさまざまな健康上の問題が生じています。国の教育再生会議では、「いじめ」「自殺」など児童生徒の心の健康問題について議論されてはいましたが、議論の中心は「学力の低下」や「規範意識の欠如」の問題でした。現状では、健康問題に対する学校現場の声が届いていないように思われます。

2. 保健主事の役割

さて、学校保健において主要な職責を果たす者

は学校に2人おり、1人は、医学的な分野や生徒の心身の健康問題について専門的に学んでこられた養護教諭。もう1人は、医学的な面や精神衛生、看護学等保健関係については全くの素人である保健主事です。しかし、保健主事はそれぞれの学校の教育全体像を熟知しているため、学校の教育課程や今日的な課題を把握しています。その点、学校保健活動をどのように取り組んでいくかデザインする企画調整力を持っています。学校の状況や小規模な課程など、養護教諭が保健主事を兼務する場合もありますが、いずれにしても保健主事と養護教諭は、学校保健を担う組織である学校保健委員会の企画運営のキーパーソンです。現場での健康課題に対処し、児童生徒の健康を維持・促進させるためにも学校での保健主事の役割を明確にし、学校保健委員会を活性化させることが必要と

第50回全国学校保健主事研究協議会岡山大会

開催日：平成19年8月2日(木)・3日(金) 参加者：350人

【1日目】全体会

基調講話：「学校保健の現状と保健主事の役割」

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官

今関 豊一

記念講演：「町と美術館と子どもたち」

大原美術館理事長

大原謙一郎

アトラクション：倉敷商業高等学校吹奏学部の演奏

【2日目】課題別研究協議

「学校保健委員会に関すること」

和歌山県伊都郡かつらぎ町立三谷小学校

米田 真紀

「エイズ教育に関すること」

愛媛県立弓削高等学校

嘉村 論

錦戸 由美

「心の健康の保持増進をめざす教育活動に関すること」岡山県浅口市立寄島中学校

萩原 浩子

各課題別研究協議では、活発な意見交換が行われ、今後の学校保健活動の課題解決に向けて大きな成果をあげることができました。

【特別表彰受賞者】

和田 光明 (青森県 保健主事23年)

秋山 英子 (群馬県 保健主事20年)

佐々木克仁 (埼玉県 保健主事24年)

竹内千佳夫 (大阪府 保健主事30年)

宮本 和代 (奈良県 保健主事20年)

森永 万祥 (長崎県 保健主事25年)

(以上、敬称略)

されています。

3. 本会の組織と活動

本会は(財)日本学校保健会の関連団体です。全国都道府県及び政令指定都市の学校保健主事(主任)会をもって組織されています。学校保健安全に関する指導のうえで、学校教育全体の調整役を果たすと共に、心の健康教育問題や学校環境の衛生管理など健康に関する現代的課題に対する中心的存在となる保健主事の全国組織として活動しています。

本会は結成以来、50年あまりを経過する中でその課せられる役割を果たしつつも、該当する都道府県及び政令指定都市(63)の中で24の団体が未加入の現状があり、組織拡大を図る必要があります。そこで、平成19年11月香川県高松市で行われた全国学校保健研究大会で本会の組織と活動内容を説

明し、さらに、平成20年1月に未加入の団体に加入依頼を文書でお願いしました。多くの団体より問い合わせがあり、加入に向けて準備を進めています。中には、学校保健主事が組織されていない地域もあり、このような地域は保健主事が孤軍奮闘となりやすいので、組織を結成し地域の健康問題に各都道府県・各政令指定都市全体で取り組んでいただけたらと思います。

保健主事が学校保健活動の要として現在以上に必要とされています。しかし保健主事の在任年数は単年の場合が多く、適任者が継続的に活動できるように、校長指導のもとで、養護教諭と連携を保って進めていくことを当面の課題としています。

中教審の答申(スポーツ・青少年分科会)の中で、「保健主事に適切な教員を配置する」とあり、私たち非常に力強く思っているところです。

第51回全国学校保健主事研究協議会開催予定

開催地：和歌山県和歌山市

会場：ホテル アパローム 紀の国

開催日：平成20年8月21日(木)・22日(金)

基調講話：「学校保健の現状と保健主事の役割」(仮題)

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官 今関 豊一
記念講演：「今こそ子どもたちに食育を」(仮題) 株式会社東洋精米機製作所 社長 雑賀 慶二
課題別研究課題：小「喫煙防止教育の取組」 和歌山県紀の川市立東貴志小学校 成瀬 憲弘

中「食育の取組」 愛知県豊田市立梅坪台中学校 保健主事・研究主任
高「生徒が主体的に取組む健康教育」 東京都立九段高等学校 竹下 君枝

大会事務局：紀美野町立小川小学校 北村 和久

〒640-1114 和歌山県海草郡紀美野町中田5

TEL 073-489-2402 FAX 073-489-2909



第50回日本小児神経学会総会 市民公開講座

「こどもの心を温かく育む為に」

座長：久留米大学医学部小児科学講座 主任教授 松石 豊次郎 先生

お茶の水女子大学 チャイルドケア&エデュケーション講座 教授 榎原 洋一 先生

共催：第50回日本小児神経学会総会 日本イーライリリー株式会社

参加
無料

日時 2008年5月31日(土)
12:00~16:00

場所 ホテル日航東京

お問い合わせ先：日本コンベンションサービス(株)関西支社
TEL:06-6221-5933 FAX:06-6221-5938
E-mail:50jsn@convention.co.jp

参加申込：http://www.jsn50.umin.ne.jp/op_seminar.html
※定員になり次第締め切らせて頂きます(定員：400名)

演題

- ①早起き早寝は子どもの心を育てる
(東京北社会保険病院/神山 潤 先生)
- ②子どもの心の問題に対する
小児神経科医の挑戦
(久留米大学医学部/永光 信一郎 先生)
- ③トラウマの脳科学的研究から
(昭和大学付属鳥山病院/加藤 進昌 先生)
- ④障害児教育の立場から
(群馬大学教育学部/原 美智子 先生)
- ⑤うつ病から子どもを護る
(東京都精神医学総合研究所/猪子 香代 先生)

◇全体討論・質疑応答

学校保健における性教育の取組

～「保護者向け・思春期教育講習会」(本会監修)の実施結果から～

(財)日本学校保健会は、「ウィスパー ハッピー「始・春・期」プログラム」の性教育教材を監修しています。この教材は思春期が始まる頃の子どもの心と体について養護教諭が保護者向けに講習するときに使用するもので、2007 年末までに、全国の小中学校で延べ約 43 万人の保護者がこの教材を使った講習会に参加しています。

また、本会の後援のもと、保護者に対する講習のスキルを高めるための養護教諭対象の研修会等を実施し、アンケートなども実施しました。

アンケート結果

研修会アンケートによると、保護者向けの講習が必要かどうかという質問に対してはほとんどの養護教諭が「必要である」と答えている一方、保護者向け講習をしたことがある養護教諭は半数に満たないことがわかります(図1)。

その理由を聞くと(図2)、「教える自信がない」「人が集まらない・興味のある人が少ない」「良い教材がない」が多く、それぞれ3割を超えています。

このプログラムの教材を使って講習を実施した学校へのアンケートを見ると、保護者が集まる機会(宿泊学習説明会や参観日など)を利用して実施する場合がほとんどで、養護教諭、保護者双方から高い評価を得ています(図3)。

「20分程度話したが、教材を持ち帰って読んでもらえるのが良い」「親子で話すきっかけになったと保護者に喜ばれた」といった声もきかれました。

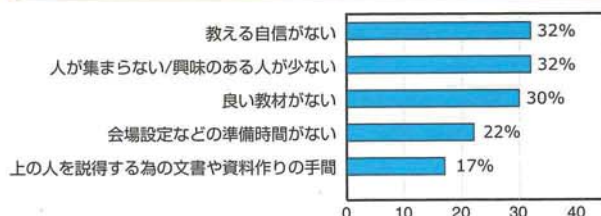
また、養護教諭対象の講習会では、参加した養護教諭から「保護者に話す内容や教材の活用について学べ、自信につながった」等の声が多く、このような場への参加も、講習会実施への足がかりになっているようです。

図1 保護者に対して行う思春期を迎える頃の子どもの心と体に関する講習について



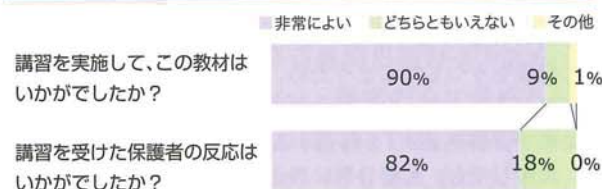
出典:養護教諭研修会会場アンケート
(2007年7月～11月 全国9ヶ所。主に小中学校の養護教諭対象 n=320)

図2 保護者向け講習を実施しない理由(複数回答、上位5位まで)



出典:養護教諭研修会会場アンケート
(2007年7月～11月 全国9ヶ所。主に小中学校の養護教諭対象 n=320)

図3 実施した先生の教材への評価と保護者の反応について



出典:プログラム教材使用講習会実施校へのアンケート(2005年8月 主に小学校 n=209)

学校現場での保護者向け講習会を応援します

本テキスト: (財)日本学校保健会監修

ウィスパーハッピー「始・春・期」プログラム 保護者用教材を無料でご提供します。

保護者会や宿泊学習前の保護者説明会などの保護者が集まる場でご利用ください。

講習の対象

小学校4年生～中学校2年生の保護者

教材セット内容 (無料)

- ① テキスト「思春期の子どものココロとカラダ」…子どもに教える、そのときに…(B5判カラー24P)(人数分)
(監修: (財)日本学校保健会、産婦人科医 堀口雅子)
- ② 実施する先生方のための指導ガイド (1枚)
- ③ ポスター (B1判カラー) (1枚)
- ④ 別冊付録 (B5判カラー12P)(人数分)

※教材と一緒に配りいただける生理用ナプキンのサンプルも、ご用意しています。(人数分)

テキストと連動したパワーポイントも、教材お申込校に提供開始!

お申し込みはWEBサイトから!

<http://www.whisper-shishunki.com>

ウィスパー ハッピー「始・春・期」プログラム事務局

TEL: 03-3549-1684 (※祝日を除く月～金曜日、午前10時～午後5時まで)

FAXでもお申し込みいただけます。FAX 03-3549-1685

(※ご使用の3週間までにお申し込みください。)

プライバシーについて お客様から収集した個人情報は、リーフレット・教材の送付、同意を得た方への勉強会などのお知らせ、当プログラムの充実のためのアンケートの実施のために使われます。お客様の個人情報は、弊社プライバシーポリシーにそって厳重に取り扱われ、ご本人の承諾なく業務委託先以外の外部機関に開示して売買、共有を行うことはありません。お客様の個人情報のご確認、又は配信停止、その他プライバシーに関するご質問は電話0120-021306(祝日を除く平日 9:15-17:00)にて承っています。

— 2012年の「はしかゼロ」をめざして —

事前準備が最も重要、1人の時点ですぐ対応が合い言葉

国立感染症研究所感染症情報センター 多屋 馨子

麻疹の感染力は強く、解熱後3日は出席停止の病気で

麻疹は、感染力が極めて強いウイルス感染症で、空気感染・飛沫感染など、様々な経路で感染します。同じ部屋に20分一緒にいるだけで感染するとされ、感染した人に麻疹に対する免疫がないと、90%以上の人が麻疹を発症します。広い体育館や講堂であっても、同じ空間を共有しただけで麻疹はうつってしまいます。春先は、入学式、始業式のように、学校全体で体育館や講堂などに集まる行事が多くあります。麻疹の初期症状は、発熱、せき、鼻水、目が赤い、目やにといった麻疹に特有の症状がないために、子どもたちのみならず教職員でも風邪だと思って出席してしまうということがあります。この時期は周りへの感染力が最も強い時期であるために、無理をして出席すると、周りにいる多くの人に感染させてしまうことになるのです。その後、口の中にコプリック斑(はん)という白い粘膜疹(はんとん)が奥歯の横に出現し、その翌日には39~40℃台の高熱となって、赤い発疹(ぶつぶつ)が全身に広がっていきます。この頃になるとせきや鼻水も更にひどくなり、目も真っ赤で、目やにもたくさん出ています。この時期になってようやく麻疹が疑われることもよくあります。しかし、発熱も既に1週間近く続いていることになり、食事ものどを通らず、体力は消耗してしまっています。赤い発疹はその後茶褐色に変色し、色が沈着して、その後消えていきますが、熱が出る前の日から解熱後3日を経過するまでの間は、周りの人に麻疹をうつしてしまうため、学校を休んで治療を受ける必要があります。麻疹は学校保健法に基づく第二種学校伝染病で、解熱後3日を経過するまでの間は出席停止であり、欠席しても、欠席日数に数えられません。休校については、施設設置者の判断になりますが、出席停止は校長先生の判断であり、麻疹疑いの時点から出席停止にすることも可能です。また、麻疹含有ワクチン(下記：麻疹の予防法参照)を受けておらず、かつ麻疹にかかったことがない人は、麻疹にかかるおそれがあるという理由で出席停止とし、ワクチンを受けてから登校するように指導している自治体もあります。

麻疹の予防法

麻疹は、手洗いやマスク、うがいでは、予防できません。麻疹含有ワクチン(麻疹ワクチン、麻疹風疹混合ワクチン)を受けることが唯一の予防方法です。

麻疹ワクチンは有効性・安全性にすぐれたワクチンですので、1回接種で多くの人が免疫を獲得しますが、5%未満の人は残念ながら免疫が付きません。また、接種から年数が経つと、10~20%程度の人で免疫が下がってくる場合があります。しかし、2回接種を受けると、発症予防は更に確実になります。これらのことから、2006年6月2日から、1歳児と小学校入学前1年間の2回接種制度が始まっています。

学校での麻疹集団発生と麻疹対応の実際

学校では、新学年が始まったらすぐに、全校生徒と職員の麻疹含有ワクチン接種歴、麻疹罹患歴を調査しておくことが重要です。また、これらの調査は、母子手帳など、必ず記録にもとづいた情報を提出してもらうようにします。そのためには、接種日の情報やワクチンのロット番号など、母子手帳などを見なければ記載ができない情報を調査用紙に盛り込んでおく必要があります。あるいは、母子手帳の予防接種の頁をコピーして提出してもらうのも一つの方法と考えます。記録がない場合は、接種歴不明と考え、記憶による記載はしないことが重要で、ここは厳しく考える必要があります。また、「麻疹」を「風疹」と混同していることも多くありますので、2つは全く異なる感染症であること等、正しい情報の提供も必要になります。調査の結果、ワクチン未接種かつ麻疹未罹患、あるいは接種歴・罹患歴不明であることが判明した場合は、速やかに麻疹含有ワクチン(現在は、麻疹風疹混合ワクチン接種を推奨)の接種を推奨します。ワクチンの接種を受けた場合は、学校に報告してもらうことが重要です。報告がない場合は、再度、接種の推奨を行います。この事前対策を講じておくと、学校での麻疹の集団発生が起こる可能性が極めて低くなります。

麻疹の流行は、そのピークは例年5月です。もし、「麻疹と診断されました」という報告を保護者から受けた場合、1名の時点で対応を開始することが重要です。まず、学校関係者、学校医、管轄の保健所、学校の設置者、所在地の市町村(特別区)、感染症の専門家を集めた対策会議を開催します。この時点で、関係者が一同に介して、情報を共有し、対策をすぐに開始することで、多くの生徒と職員を麻疹から守ることが可能です。現在の日本の現状では、事前準備がなされていなかった場合、1名の発症後10~12日前後の潜伏期を経て、数名の発症者が出ることを止めることはできません。しかし、1名の時点ですぐに保護者への情報提供と、可能な限り速やかに緊急予防接種を実施することで、その後発症する数十人規模の発症を予防し、集団発生を抑制することが可能です。接種不適当者に該当しない限り、麻疹ワクチン未接種かつ麻疹未罹患の人は、今すぐに予防接種を受けておくことが重要です。また、最初に発症した人がつらい思いをすることがないような配慮も是非必要です。「1名だから様子を見ましょうか」、あるいは「数名だから様子を見ましょうか」と考えていると、1か月以内に学校全体の1割近くが発症する大きな集団発生に繋がります。

2008年4月1日から、中1、高3相当年齢の人は、麻疹と風疹ワクチンを受けましょう

2007年春の流行を受けて、2008年4月1日から5年間の期限措置として、中1および高3相当年齢の人は、麻疹風疹ワクチンを法律にもとづいた定期予防接種として受けられるようになりました。これまでに1回も受けていない人は勿

論、幼児期に1回受けた人も全員が受けることになります。麻疹あるいは風疹のどちらか一方だけにかかった人も、麻疹風疹混合ワクチンの接種が受けられるようになりました。費用については、通常であれば1万数千円の自己負担が必要ですが、対象の1年間に限っては、お住まいの市町村(特別区)が、全額あるいは一部を負担してくれます。

2008年度小学校1年生と2年生の人は、既に2回の接種が行われていると思いますが、受けそびれている人は、早急に2回のワクチンを済ませておきましょう。この場合は、任意接種になります。

2008年度小学校3年生から中学校1年生の人は、中学校1年生に相当する年度の1年間に定期接種として受けることができます。この年代で、まだ1回も受けたことがない人は、任意接種で早急に1回接種し、中学校1年生に相当する年度に2回目のワクチンを受けましょう。

2008年度中学校2年生から高校3年生に相当する年齢の人は、高校3年生に相当する年度の1年間に定期接種として受けることができます。この年代で、まだ1回も受けたことがない人は、任意接種で早急に是非1回接種し、高校3年生に相当する年度に2回目のワクチンを受けましょう。

2008年度高校を卒業している年齢の人は、定期接種の対象になりません。しかし、麻疹の重症度は高く、2008年春

の流行は確実な状況となっていますので、任意接種であっても接種を受けておくことが推奨されます。

最後に、中1、高3相当年齢の人への接種にあたっては、保護者の同伴条件の緩和が認められています。保護者の書面での同意が必要ですが、接種に際しての注意事項が盛り込まれた説明書と、保護者が同伴しない場合に使用する予診票が例示されています。また、保護者が同伴する場合も別の予診票が例示されています。これらの予診票を使用して、接種前の体調は十分に把握し、たとえ緊急接種する場合においても、接種不適当者に接種してしまうことがないように、十分な注意が必要です。また、接種後の体調観察は確実にを行い、気になる症状があった場合は、速やかに医療機関に相談するよう指導することも重要です。

国民全員が、「はしかゼロ」をめざして、学校でも積極的な麻疹対策が必要であると考えます。麻疹対策は、他のすべての感染症対策にも繋がります。国立感染症研究所感染症情報センターでは、保育所・幼稚園・学校等における麻しん対応ガイドライン第二版をホームページに公開しています(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/school-ver2.pdf>)。事前準備は多くの子どもたちと職員を救います。新学期は事前準備で始まって欲しいと願っています。

乳幼

児の発達心理学的研究では、「心の理論」について盛んに研究されている。心の理論とは、人が心(意図・欲求・感情・信念等)を持つというものの理解であり、通常乳幼児期に発達するが、自閉症など広汎性発達障害児にはその獲得が困難であったり、著しく遅れたりするといわれている。近年、脳神経科学の研究が進む中で、ミラー・ニューロン仮説と心の理論の発達、および広汎性発達障害の関係が着目されている。たとえば、カリフォルニア大学サンディエゴ校のOberman、Ramachandran両博士は、2007年のPsychological Bulletin誌において、他者の行動や表情等を観察した経験を、脳のミラー・ニューロン・システムによって、自己内にシミュレーションすることが、模倣、心の理論、共感、言語等の発達に関係するのではないかと、またそのシミュレーション・メカニズムがうまく機能しないことが自閉症の障害に関係するのではないかと述べている。

また、

1995年「EQこころの知能指数」を発表したGoleman博士は、近年



京都ノートルダム女子大学
心理学部教授 高井 直美

心の理論と 社会性の発達

Social Intelligence(社会的知性)という概念を提唱し、IQ、EQに続く第三の知性として、人間関係において発揮する知性の重要性を説いている(土屋京子訳「SQ生きかたの知能指数」が日本経済新聞出版社より2007年出版された)。他者の心に共感し、同調する能力については、発達障害のない人においても個人差は大きい。こうした社会的知性は、ミラー・ニューロン等の神経的基盤を持ちながらも、遺伝子がすべてを決定するのではなく、親による子育てなど環境要因との関係があることをGoleman博士は強調している。

筆者

は、就学前の幼児が仲間と遊ぶ場面の観察を行い、相手とごっこ遊びでイメージを共有したり相互交渉したりするプロセスに、個人差があることを見出した。こうした個人差の一部には心の理論課題の成否との関係も見出されているが、友達との遊び経験が、社会的知性にどのように影響するのかについての詳細な関係に関しては、今後明らかにしていくべき課題であると考えている。

特別支援教育座談会

テーマ「特別支援教育元年と
これからの展望」

～コーディネーターの役割を中心として～



出席者（順不同・敬称略）

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
特別支援教育調査官 下山 直人独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
教育支援研究部 廣瀬由美子

東京都立港養護学校教諭 川上 康則

〈司会進行〉
川崎医療短期大学教授 詫間 晋平

教育支援の広がりと充実、これまでの状況

詫間 昨年4月より、改正学校教育法が施行され、特別支援教育が各学校において実施されることになりました。いわば昨年は特別支援教育元年ともいべき年でした。「学校保健」でも267号から269号にわたって、特集記事が掲載されました。「学校保健と特別支援教育」というテーマで267号では文部科学省初等中等教育局特別支援教育課の前課長・瀧本寛氏から特別支援教育の概要について、268号では、同省の特別支援教育調査官・丹羽昇氏から具体的な校内体制整備と教育支援計画策定の必要性について、269号では、同課長補佐・発達障害支援専門官の古川聖登氏から特別支援教育コーディネーターについて、詳細が論じられました。また、「学校保健」267号では、「平成18年度幼稚園、小学校、中学校、高等学校等におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等のある幼児児童生徒への教育支援体制整備状況調査結果について」、268号ではモデル校の実践記事も掲載しています。

本座談会では、特別支援教育元年を終えようとするこの時期に、総まとめとして行政、研究、現場の3サイドからこの1年の反省、または今後の展望をお話いただきたいと思います。まず、下山先生より267号でも取り上げた教育支援体制整備状況調査

について、概説を交えながらお話をいただきます。

下山 特別支援教育が法律に位置づけられたのは今年度ですが、行政や現場レベルでは、平成15年ごろから支援体制づくりが推進されてきました。決して急に浮上した課題ではなく、時間をかけてできるところから取り組まれており、本誌267号で瀧本氏が「静かなる教育改革」と呼んでいる所以です。平成19年度を「元年」と位置づけたのは、これまでの取組をいっそう充実させていこうという決意の表れです。この1年、マスコミで取り上げられる機会も増え、特別支援教育という用語もずいぶん一般に浸透してきたのではないかと思います。

特別支援教育は、障害の種類や程度等に応じて行ってきた「特殊教育」の成果を引き継ぎながら、一人一人のニーズに応じてよりよい教育を進めていこうというのがその趣旨です。具体的に申し上げますと、まず、ニーズのある子どもは教育の場にかかわらず支援をする訳ですから、今まで支援の対象になっていなかったLD、ADHD等発達障害の子どもたちへの支援を開始することにしました。支援の対象の広がりです。もう一つは、これまで特殊学級、盲・聾・養護学校で指導を受けていた子どもたちを含め、障害のある子どもの教育をもっと充実させていこうということです。これまでは



下山直人氏(左)、廣瀬由美子氏(右)

特殊学級や養護学校等に入れば後はお任せ、という傾向があったのですが、もっと専門的な教育をしっかりと

行っていくために、学校全体あるいは学校の外部の人の力も借りられるように教育のシステムを再構築しようと取り組んでいます。

「学校保健」でも掲載された調査結果は、各校種ごとに特別支援教育体制がどれだけでできているかということをもとめたものです。小・中学校については16年度から、年々校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを指名する学校が大きく増加しています。特別支援教育元年の効果があったのでしょうか、19年度には9割を超えました。コーディネーターについても7割台から9割を超えるところまでできています。また巡回相談など、外部の専門家の活用も伸びています。調査結果から、小・中学校における体制作りは確実に進んでいると捉えることができます。今後は支援の中身を充実させていくことが必要ではないかと思っています。調査では、個別の指導計画はまだ半分ほどの学校でしか作成されていません。また、幼稚園、高等学校については体制作りも遅れていますので、これから進めていかなければいけないと考えています。

託問 支援システムの構築ということでは、通常の学校に障害のある子どもがいる場合は、まず校内委員会の設置、そして委員会の設置に伴いコーディネーターの指名が進められているので、そのために数字が伸びてきたものと思われます。この中の6割から7割近く養護教諭が指名されているようですね。

現状ではコーディネーターと養護教諭の役割が重複している場合が多く、担任教諭のあり方もまだ議論の余地があると思いますが、研究者の観点から廣瀬先生はどのようにお考えでしょうか。

廣瀬 最初に、国立特別支援教育総合研究所では平成15年度から、都道府県教育委員会等の研修を担当する立場の方、リーダーシップを取れるような立場の方を対象にコーディネーター研修を行ってきました。最初の年はたった2日間しか取れず、皆さ

んが初めて聞く役職名でもあり、連絡調整が大きな役割だということだけは確認させていただきました。16年度からは期間も1週間と増やし、まず各地域でコーディネーター研修を行うための指導主事のような立場の方に集まっていたいただきました。研修を受けた指導主事の先生方に、各地域でコーディネーター研修を広めていただくという手法で、今日までコーディネーター研修のフォローアップをしてきました。

また平成13、14年度とLDのモデル事業が文部科学省で実施されました。私は、科学研究費の一環として15年にモデル事業に指定された研究校に調査を行い、モデル事業が終わった段階で校内委員会がどうなっているか、またその時はコーディネーターという正式な役割はまだなかったのですが、コーディネーター的な役割をされた方がどのような立場の方だったのか等調査をさせていただきました。一番知りたかったのは、モデル事業に指定されているときは予算もつき、外部の助力も得られるので校内委員会が機能していくのですが、モデル事業指定が終了したときにどうなったのかということでした。

その結果、指定を受けた92校のうち四分の一は活動が衰退してしまい、逆に四分の一は活性化したという現実がありました。衰退した学校と活性化した学校の違いは何かというと、専門家の力を上手に活用して学校が主体的に動けたかどうかというのが二極化する一番のポイントでした。どんなに専門家が入ってシステム作りをしたとしても、全て下駄を預けてしまうと、その方々がいなくなったら途端に衰退してしまうのは当然なのでしょう。

学校が主体的に動くためには、学校内の人材が校内委員会のメンバーとして積極的に取り組む必要があります。私は養護教諭、生徒指導主任という方は学校の中でとても大きな役割を果たすと思っていたので、そうした方たちが校内委員会のメンバーに入っているかどうか調べました。すると当時は半数程度が入っていないという状況でした。特別支援教育ということでスタートした事業だったので、特殊学級の先生方が中心となった学校が多かったのです。

確かに体制構築の数字的な面は上がってきていますが、機能的に校内委員会やコーディネーター、そのサポートチームが動いているかというところはまだ不十分な学校もありますので、ぜひ養護教諭、生徒

指導主任の方々には積極的に関わってキーパーソ

ンとなって活動していただきたいと思います。

全員が個性を発揮できる教育に

託問 川上先生はコーディネーターとして多くの学校に関わってこられました。現場の様子はいかがですか。

川上 東京都の港養護学校は港、品川、目黒、渋谷区の4区のセンター校として東京都から指定を受けています。巡回相談や研修の依頼があれば迅速に伺います。

各校を回ってみて感じたことは、機能的な校内体制を作っている学校は一人のコーディネーターが核になっているだけではなく、だいたい2名から3名の複数コーディネーターを立てています。養護教諭、学級担任、特別支援学級の担任の中で相談しやすい方々、場合によっては管理職の方も入っています。コーディネーターも1年だけ担うのではなく複数年計画であったり、また異動があっても必ず次の人を育てて組織づくりを確実にするようにしていくと、支援はうまく続いていきます。最初は混乱していても、そういうやり方を徹底していると徐々に落ち着いてくるところが多いですね。養護教諭の役割は非常に大きく、本日伺った港区の小学校でも、気になる子が何時間目に学校内のどこにいるかを養護教諭がきちんと把握していました。

一方で、担任の先生も自身の関わりを大切にもらえるよう工夫しています。巡回相談の時などに会った子どもたちの姿や掲示物、教室環境など、気になるところ、いいところを写真に撮らせていただいて、研修会の形でお見せするんです。そうすると、今まで気にしていなかった場所がとても大事なのだということが担任の先生方にもよくわかっていただけて、今では特別なことをするというより、授業改善、学級経営、クラス作りを自然にできるようになったところも増えています。

下山 お二人が話された通り、特別支援教育というとあたかも特別なことをするかのようと思われるがちですが、私たちが大切にしたいことは、特別に支援が必要な子どもだけではなく、誰にでもわかる授業に改善したり、よい学級経営をして気にかかる子を学級のみみんなでサポートできるようにしたりすることなんですね。そういう努力をすることが最終的には、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、全員が個性を発揮できるような教育に

近づいていくことになると思います。現場の話を伺って、そういうところに近づいている学校もあるということを知って大変嬉しく思います。

託問 そのような個別指導計画のことをアメリカではIEP (Individualized Education Program) といいますが、本来教育とは、障害のあるなしに関わらず子ども一

人ひとりに対して個別指導計画を立てるべきものですから、どこから取り組むにしてもその精



川上康則氏(左)、託問晋平氏(右)

神が学習指導に生きてくるということですね。また根底には生活改善ということもあります。本誌270号の新春座談会でも取り上げられた「早寝・早起き・朝ごはん」というスローガンはまさにその根底から改善されようというものですね。

川上先生の学校のチームは、自分の学校のみならず地域の情報センター、指導センターとしての役割も担っているわけですが、個別指導計画についてはどのような取り組みをしていますか。その実践から現場での学校と地域社会との連携についてお聞かせください。

川上 港区にはディスレクシア(難読症)の児童とその周辺を支援するNPO法人「エッジ」という団体がありまして、そこにわれわれ港養護学校と明治学院大学も協力しているという形です。そこでは学校支援員さんを研修するシステムなどを持っています。今までは行政とNPOが連携するということとはなかなかなかったのですが、そこに大学も加わり、活動を行っています。

下山 特別支援教育の特徴は、学級の担任の先生だけに任せないで、学校全体で取り組むことであり、校内だけで足りなければ外部のさまざまな人たちの力を借りて行うということです。一面では連携であるし、一面では学校を開くことでもあります。専門家の指導・助言をはじめ、支援員やボランティアなどいろいろな人たちの参加と協力が必要です。

養護教諭の役割と学校三師の関わり

託問 養護教諭も従来より職務の幅が広がりました。授業や学習活動にも大きな役割を果たすようになりつつありますね。

廣瀬 前述の科学研究の協力者になって頂いた養護教諭の方の情報です。養護教諭の職務は「学校保健情報の把握」や「保健指導や保健学習」など九つほどあるようですが、この9項目それぞれに、発達障害の子どもたちにはどんな取り組みをしているかということをもとめたものがあります。例えば「学校保健情報の把握」では、保健室で気になったことをメモしておいて個人カルテに引用しながら、校内委員会の気になる子どものケース会議などに情報提供したり、「保健指導や保健学習」なら、発達障害のある子どもにありがちな偏食や過食の問題などから切り込んでみたり、その先生は工夫を重ねています。

託問 養護教諭のいない幼稚園、または高等学校での取り組みはいかがでしょうか。

下山 幼稚園では、気になる子どもたちへの支援について理解されやすいようです。個々の幼稚園

でずいぶん取組が違いますが、モデル的な取組をしているところもあります。また、保育園における早期支援も重要です。障害が理解されないと、叱られることが多かったり、もっと頑張りなさいと言われたり、言われ続け、その結果、自信を失い無力感を学習して育つことになります。したがって、できるだけ早期に支援を始めなければなりません。

高等学校でも、モデル的事業等に行っておりますが、体制整備は立ち後れている状況です。

特別支援教育で、一層のご支援をお願いしたいと思うのが学校三師といわれる学校医、学校歯科医、学校薬剤師の方々です。発達障害のお子さんにも医療面からの支援が必要な場合も少なくありません。例えば、教師から保護者に診察を勧めてもなかなか受け入れてもらえないものですが、医師の言葉ならすんなり受け止められることもあります。そういう意味でも、校内外のさまざまな方に参画していただきたいし、そのための働きかけが大変大事な時期であると思います。

学校・地域の方々との連携、チーム体制作り

託問 最後に今後の展望をお願いいたします。

川上 私が巡回相談を頻繁に行う目的には、先生方に当事者意識を持っていただくということもあります。小学校の先生には幼稚園の情報と中学校の情報をきちんとお伝えして、今ここを逃すと、後々問題が大きくなってしまふかもしれないということをお話しています。幼稚園の段階で、すでに何をやってもうまくいかないと思い込んでしまっている子どもたちは多いのです。しかし自分の力ではうまくいかないけれども支援を受ければうまくいくのだという経験を小さいうちに積み上げておけば、小・中学校になった時にもっと伸びると思います。

廣瀬 特別支援教育を進めるに当たってコーディネーターの役割は大きく、原点に戻ればその責務は連絡調整役に尽きると思います。ところが連絡調整が個人的に苦手な人もいます。ですから複数のコーディネーターでチーム体制を作り、機能を万全にしていくことが肝心だと思います。

下山 特別支援教育元年に、支援体制づくりや理

解・啓発が進んだことの一つの現れとして、来年度の予算案において特別支援教育関係予算が増額になっています。

発達障害支援については、厚生労働省との連携も進めています。両省が同時にモデル指定し、教育・福祉・労働などを一体的推進するモデル地域のようなものを構想しています。また、「発達障害教育情報センター」を新設して、情報提供や研修情報の発信などを行います。早期支援と高等学校におけるモデル事業もそれぞれ倍の地域や学校を指定して進めることにしています。

さらに、特別支援学校については、新しい試みとして、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)などの外部専門家を活用した調査研究を行います。

文部科学省としては、今後とも、皆さんの御理解を得ながら特別支援教育の積極的な推進に努めて参ります。

託問 本日はご活発な発言をいただき、ありがとうございました。

信頼性抜群！ 空気測定採取機器 購入お申し込みは本会へ

「パッシブガスチューブ(拡散方式)」価格 各5,355円(税・納品時の送料・検査結果報告書込)

・DNPHホルムアルデヒド用(申し出によりアセトアルデヒドも同一検査 可)

・VOCs用(トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレン・パラジクロロベンゼン)

分析機関への返送は精密な結果を得られるように、クール宅急便扱いになります。

※ 分析機関返送シール 価格 1枚500円(教育委員会・学校の直接購入のみ対応)

安価に設定されています。ご利用下さい。

詳しくは本会ホームページ(環境・斡旋用品)をご覧ください。

<http://www.hokenkai.or.jp>

笑顔輝け！ 健康ライブラリー



監修／(社)日本医師会・(財)日本学校保健会
推薦／(社)日本小児科医会

問合先／TEL. 0467-23-9188

「OTSUKA 続まんがヘルシー文庫」事務局

全国の小学校・公立図書館等へ 寄 贈 し ま す ！

はじめ12人の漫画家の方々にお描きいただきました。
(3月末日発行)

今回のテーマは「食と運動と睡眠」。読者対象を小学校3～4年生に変更した新シリーズは、やなせたかし、赤塚不二夫、ちばてつやは

大塚製薬(株)が平成元年に「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」として創刊。健康に関したテーマ別にこれまで小学校高学年向け12巻、英文を併記した中学生向け6巻を全国の小中学校などへ寄贈してきました。

「食べて、遊んで、
ねる子は育つの巻」
OTSUKA 続まんがヘルシー文庫1

冊子「よくわかるアトピー性皮膚炎」刊行のご案内

ご好評をいただいております冊子「よくわかる食物アレルギー」に続く第2弾、「よくわかるアトピー性皮膚炎」が刊行となりました。こちらの冊子を、ご希望の方に無料で(送料もいただきません)お送りいたします。下記の宛て先に必要事項をご記入の上お申込みください。



冊子「よくわかるアトピー性皮膚炎」

- 誤解の多いアトピー性皮膚炎について、専門家がわかりやすく解説
- 最新の情報をもとに、病気の基本とそのスタンダードな治療を紹介
- カラーイラストを多用し、見開きごとに読みやすく説明
- 巻末には写真を多数用いて「スキンケアのABC」を紹介
- (財)日本学校保健会 後援

・著者 大矢幸弘(国立成育医療センター第一専門診療部アレルギー科)
・A5判 カラー60ページ 平成20年1月31日発行

お申込み先

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町3丁目1番15号 藤野ビル2F

MCクリエイト株式会社 「よくわかるアトピー性皮膚炎」希望 係

電話番号 03-3660-5731 FAX番号 03-3660-5730

ご送付先ご住所、郵便番号、ご連絡先お電話番号、ご希望者氏名、ご希望冊数をご記入ください

虎ノ門 (92)

「麻しん排除 (Elimination)」

2007年の麻しんの流行は私たちに多くの教訓を与えた。1978年に麻しんが定期予防接種に組み込まれ、『1歳のお誕生日に麻しんワクチンを』を合言葉に2005年には1歳児の接種率は80%、2歳児の接種率は95%以上となった。2006年から麻しん風しん混合ワクチン(MR)が導入され、1回接種から他の先進国並みに2回接種に改められたが、第Ⅱ期の小学校就学前1年の接種率はいまだに低い状況が続いている。そんな中、2007年の流行を教訓として、国は「麻しんに関する特定感染症予防指針」を策定した。第一の目標に2012年までに麻しんを排除し、かつその後も排除状態を維持することを掲げた。排除(Elimination)とは、1) 輸入例を除き麻しん確定例が1年間に人口

100万あたり1例未満 2) 全数報告などの優れたサーベイランスの実施 3) 2回の予防接種率がそれぞれ95%以上 4) 輸入例に続く集団発生が小規模 という内容である。特に3)を受けて麻しん・風しん混合ワクチン(MR)は現在の1歳児と小学校入学前以外に、中学1年相当及び高校3年相当世代を追加し、5年後の2012年までには22歳以下は麻しん予防接種は2回接種世代になる予定である。接種率95%を目標に予防接種を受けやすくするため、中学1年・高校3年相当世代については、書面で保護者の了解を得られれば同伴の必要はなく、条件が揃えば学校などでの集団接種も可能としている。麻しんは「たかがはしか」と侮ることなく「麻しんは罹患する前に予防すべき疾患」であることを再確認し、麻しん排除に向けて取り組む必要がある。

(編集委員 山田 正興)

編 集 後 記

近頃、ワーキングプアなど大人社会ばかりでなく子どもたちの中でも「格差」が気になっています。スポーツ選手を目指すなどよく運動する子とほとんど運動しない子、進学目的など勉強する子と全くやる気のない子、肥満傾向とやせすぎの子…

今年度は「特別支援教育」をテーマに特集記事を掲載。今号はその締めくくりとして座談会を開きました。養護教諭や管理職の先生方だけでなく、学校全体の共通理解のためにも多くの方々に読んでいただきたい内容です。

健康課題は、勉強する子、しない子、運動する子、しない子、障害のある子、ない子、どんな子どもでもそれぞれにあります。しかし、子どもたちの格差の両

極化で健康問題がより複雑、深刻化しているとも感じています。都内のある中学校のように特定の生徒の学力を上げる取組もいいですが、早寝朝ごはんで学力が上がるという報告もあります。健康教育こそ「格差」をなくす取組ではないでしょうか。

本年1月、中央教育審議会が答申をまとめました。スポーツ・青少年分科会で審議された三本柱の一つ、「学校保健の充実」では、養護教諭の役割に関する法整備の必要性や保健主事における適切な教員の配置など意義深い事柄が盛り込まれました。

健康教育で学力向上、生活習慣の改善、そんな実践事例をぜひ本誌へお寄せください。

(編集委員長 林 眞示)

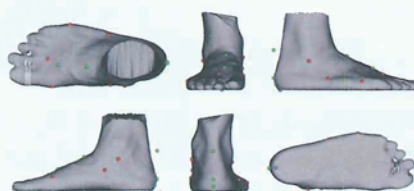
お詫び

前号270号の8ページ、「平成19年度健康教育推進学校表彰校決定速報」「平成20年度全国及び各地区ブロック大会日程予定」の欄に間違いがありました。読者、関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。深くお詫びいたします。(2ページに再編集した誌面を掲載)

「児童生徒の足計測」が始まっています

現在、財団法人日本学校保健会では、今後の健康教育や保健指導等に役立てるため「児童生徒の足に関する実態調査」を実施しています。

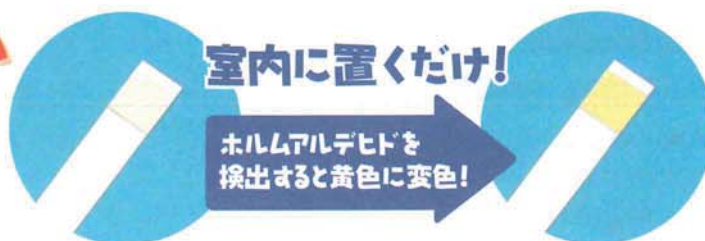
この調査は、足の大切さの普及活動に合わせ、調査協力校にうかがい、児童生徒の足の大きさ等を三次元計測器を使用し計測させて頂くものです。足の計測や調査に関わる業務は「JES日本教育シューズ協議会」が担当させて頂いています。計測についてのご説明や、実施要項・足の資料等をご希望の方は、JES東京事務所までお問い合わせ下さい。



日本教育シューズ協議会
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-3-4
TEL.03-3862-8684 FAX.03-3862-8632
Eメール: keisoku@jes.gr.jp

21世紀の健康

**シックハウスの
原因物質を
簡単チェック!**



ホルムアルデヒドテストストリップ



関東化学株式会社 試薬事業本部 試薬部 TEL: (03) 3663-7631



インターネットでも
商品の情報をご覧いただけます。
<http://www.kanto.co.jp/siyaku>

**抽選で10校様にポカリスエット500mlペットボトル
1ケースを無料進呈します。**

商品に関するお問い合わせ先

Otsuka
大塚製薬

TEL: 0120-550708
<http://www.otsuka.co.jp/poc/>

(財)日本学校保健会推薦



学校名、住所、TEL、ご担当者名、学校でのポカリスエットの
活用方法を記入の上、下記の事務局「ポカリスエットプレ
ゼント係」宛てにハガキでご応募ください。
※当選発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

【応募締切】平成20年4月末日まで

応募に関する問い合わせ先 健康と料理社

〒102-0075 東京都千代田区三番町24 林三番町ビル4F
TEL: 03-5275-6838
(お問合せは、土日祝日を除くAM10:00～PM6:00)



爽やかな世界へようこそ。



お口の老人
LOTTE

むし歯のない社会へ。

キシリトールで、行ってみよう。



厚生労働省許可 保健機能食品(特定保健用食品) (財)日本学校保健会推薦 (社)日本学校歯科医会推薦
ガムをかんだ後は口の中に残さず飲み込んでください。

ロッテキシリトールガム www.lotte.co.jp



学校保健用品総合メーカー

<http://www.sanwa303.co.jp/>

■■■商品は近所の販売代理店よりお求めいただけます■■■

先生のアイデアから生まれた「伸縮式つい立」(財)日本学校保健会推薦商品

《エキパンダースクリーン》

127～187cmに高さを自由に換えられ、移動と収納に配慮しました

- お部屋に合わせて選べる4色のパステルカラー
- 触れても汚れが付きにくい防汚加工済
- 普通に洗えるウオッシュャブル対応布



カタログを
送付致します

- 保健室設備品
- 健康診断器具
- 救急処置器具
- 衛生材料 等

総ページ数
【416ページ】

～ Human Like ～

私たちはめくもりのあるモノづくりを目指しています 人が使うモノだから、優しくありたい...
人が使うモノだから、温かみを感じて欲しい... 使う人のために...と、私たちは常に考えます



0120-827-303 FAX 03-5607-7812

【お問合せ】株式会社 三和製作所 医療事業部